

## ●マナティ・リリック序曲

*Manatee Lyric Overture*

## ロバート・シェルドン

*Robert Sheldon ( b.1954:アメリカ )*

シェルドンの作品は、比較的簡単な技術でも高い演奏効果が得られる、教育的配慮された中級向けの作品が多い。アメリカの学生バンドは、日本のような学校単位の活動より、地域合同バンドの方が盛んであるため、短期間の練習でも仕上がり、かつ魅力的な旋律を持った曲が好まれる傾向にある。本作はフロリダ州マナティに建設された公共施設のオープニングを祝うため、この街の高校選抜バンドのために作曲された。輝かしい序奏部で始まり、若さあふれるスピード感を持った音楽が続く。中間部の叙情的なメロディが美しい。1985年作曲。

## ●ミュージカル「レ・ミゼラブル」より

*Les Miserables*

## シェーンベルグ（編曲：福島弘和）

*C.M.Schönberg ( b.1944:フランス )*

「レ・ミゼラブル」は、フランスの作家ヴィクトル・ユーゴーが1862年に執筆した同名小説を原作とするミュージカルである。フランス革命前後の一人の男の生きざまを描いた作品で、1985年に初演され、今なお世界中で愛されている。シェーンベルグ作曲の音楽も大変素晴らしく、吹奏楽編曲版もいくつか出版されているが、今回は福島弘和版を演奏する。収録曲は①プロローグ、②一日の終わりに、③オン・マイ・オウン、④心は愛に溢れて、⑤最後の戦い、⑥ワン・デイ・モア の6曲である。雄大なフィナーレで感動的に終幕を迎える。2013年出版。

## ●沈黙は青い雪のやうに

*Silence is as blue snow*

## 平川忠一郎

*Tadaichirou Hirakawa ( 日本 )*

ジョイント名誉顧問、平川先生の作品です。長年、国語科教員として千葉県公立高校で勤務され、吹奏楽指導の傍ら、コントラバス奏者としても活躍されました。定年後は趣味で編曲活動を行っていましたが、今回は何と作曲。ご本人による解説文を紹介します(未出版)。

このタイトルは立原道造詩集『暁と夕べの詩』の『眠りのほとりに』という詩の一節からとりました。何かかっこいいタイトルはないか、若いうちに立原道造に触れてほしいという不純な動機で選びました。何やら意味深な感じですが、実は「やさしく私を襲ひ…」と続きます。「沈黙は青い雪のやうに」だけ取り出すと何やら意味ありげで面白いかなと。

曲はゆったりと静かに始まり盛り上がり静かに終わるという非常にシンプルな構成になっています。いつか『道造に寄す』(仮)という、組曲の第二楽章にできればと思っています。

## ●「烏山頭」～東洋一のダム建設物語

*The Beautiful Tressure - Wushantou Dam by Yoichi Hatta*

## 八木澤教司

*Satoshi Yagisawa ( b.1975:日本 )*

八木澤教司さんは市川市在住の人気作曲家で、ジョイント参加各校の顧問とも親交があり、この演奏会においては、2003年の第13回より毎年、1年バンドで八木澤作品を演奏している。海外での人気も高く、世界を飛び回る八木澤さんであるが、今回の練習期間にも多忙な仕事の合間に練習会場にお越しになり、作曲者本人より直接指導を頂くという貴重な機会を得た。

かつての台湾では水源に乏しく、生活に必要な水の供給が困難な状態であった。日本技師、八田與一氏が台湾人のために10年かけてダム建設に取り組み、1930年に完成させた。本作はダムの情景、日本人と台湾人の建設の苦労と完成の喜びが描かれ、八田氏の予期せぬ戦死を悲しむ妻の「悲しみの歌」から、やがて彼の功績を称える讃歌へと発展していく。2018年作曲。

## ●リンカンシャーの花束

*Lincolnshire Posy*

## パーシー・グレインジャー

*Percy Grainger (1881-1962: 豪州)*

グレインジャーはオーストラリア出身の作曲家。若くしてヨーロッパへ、後にアメリカへ渡ったが、オセアニア地域出身の作曲家はあまり多くないため、故人とは言え貴重な存在である。本作はイングランド東部のリンカンシャー地方で1905年頃に採取された6曲の民謡を基にしている。作曲にあたっては、その民謡を歌っていたそれぞれの歌手の歌い方で再現しようとした。そのため不規則なリズムの変動や間延び、節回しを、変拍子や装飾音符を多用して描いており、やや難解な楽譜となっている。各曲のタイトルは次の通り。1937年作曲。

第1曲	リスボン	(船乗りの歌)
第2曲	ホークストウ農場	(守銭奴とその召使い：地方の悲劇)
第3曲	ラフォード公園の密猟者	(密猟の歌)
第4曲	元気な若い水夫	(恋人と結婚するために帰郷)
第5曲	メルボルン卿	(戦いの歌)
第6曲	行方不明のお嬢さんが見つかった	(踊りの歌)

## ●第六の幸福をもたらす宿

*The Inn of the Sixth Happiness*

## アーノルド (編曲: 瀬尾宗利)

*Malcolm Arnold (1921-2006: イギリス)*

1958年公開映画「第六の幸福をもたらす宿」(邦題：第六の幸福)の音楽は、当時すでに映画音楽で実績のあったアーノルドが管弦楽で作曲した。元々は演奏会用組曲の形をとっていなかったため、弟子のパルマーが管弦楽組曲の形に整え、1992年に出版された。今回演奏する瀬尾版も含め、吹奏楽で演奏されるのは、このパルマーの管弦楽組曲を吹奏楽編成に編曲したものである。アーノルドの作品は吹奏楽でも人気が高く、本作も吹奏楽編曲版がいくつか出版されている。なお、映画の内容を紹介したいところだが、この組曲から映画全体を連想するのは難しいので、興味ある方はDVD等で確認して頂ければと思う。収録曲は次の通り。

I. ロンドンプレリュード    II. ロマンティックな間奏曲    III. ハッピーエンディング

## ●サガ・マリーニャ - ミュージカル「サタンの種」より第2組曲 - ベルト・アッペルモント

*Saga Maligna**Bert Appermont (b.1973: ベルギー)*

ベルギーの作曲家アッペルモントは、多彩なジャンルの曲を手がけるが、吹奏楽曲も豊富にあり、日本で演奏される機会も多い。その中で注目されるのが、2002年初演の全編吹奏楽による異色のミュージカル「Zaad van Satan」(サタンの種)だろう。魔女狩りの嵐が吹き荒れる中世ヨーロッパが舞台。7名のソリスト、合唱団、吹奏楽団による18曲構成の大作である。

この付随音楽を編集して、第1組曲「サガ・キャンディダ」(2002年)が作られたが、これが大変好評であったため、同じ手法で作られたのが本作、第2組曲「サガ・マリーニャ」である。タイトルは「邪悪な物語」といった意味を含むようだが、原曲の「サタンの種」の展開には関係なく曲が選ばれているため、細かなことは気にせず、純粹に音楽としてお楽しみ頂くのが良いだろう。思わず口ずさみたくなるメロディが次々と現れて楽しい曲である。2008年出版。